

ダニエル書 - 第三百二十二番

第二の試練の預言的意義を明らかにする：獣の像と十四万四千人の封印の時期を理解する

Jeff Pippenger

2024-03-12

これまでの記事では、三人の天使によって表される三つの試験のうち第二の試験の預言的な特徴を特定することに時間を費やした。各天使は特定の試験を表しており、第二の試験は視覚的な試験として示されている。私たちは三人の天使すべてを特定し、それぞれに対応する試験はダニエル書1章にも示されている。そこでは、三つの試験の第二は、バビロンの食事ではなく菜食を摂った後のダニエルと三人の友人の外見に基づいていた。第二の試験のもう一つの特徴は、それがしばしば教会と国家の結合の表現によって示されることである。

三人の天使とそれぞれの試練は、創世記第十一章におけるニムロデのバベルの崩壊の中に見いだされる。三つの試練は、三節、四節、七節で「go to」という表現が三度用いられていることによって示されている。四節における二度目の「go to」という表現は、第二の天使の試練を示している。

彼らは言った。「さあ、私たちのために町と、頂が天に届く塔を建てよう。私たちの名を上げよう。そうでないと、私たちは全地に散らされてしまう。」創世記11章4節

都市は国家を表し、塔は教会を表す。彼らはまた、特定の品性を求めており、それは自分たちのために名を上げようとする望みによって示されている。第二の試練においては、しばしば品性が現れ、しかもそれは反対の品性との対比によって明らかになる。カインとアベル、賢い乙女と愚かな乙女、あるいはダニエルの第二の試練における、バビロンの食事を食べた者たちと豆類を食べた者たちとの外見の違いに見られるように。

どうかあなたのしもべたちを十日のあいだ試してください。私たちに食べるための豆類と、飲むための水を与えてください。それから、あなたの前で私たちの顔色と、王の食物の割り当てを食べている少年たちの顔色とを見比べてください。そしてあなたがご覧になるとおりに、あなたのしもべたちを取り扱ってください。そこで彼はこの件に同意し、十日のあいだ彼らを試した。十日の終わりには、王の食物の割り当てを食べていたすべての少年たちよりも、彼らの顔色はよく、肉付きもよく見えた。ダニエル書 2:12-15.

ミラー派の歴史において、第二の天使の試金石は礼拝者を二つの階級に明らかにした。試験に落ちた階級はローマの娘たちとなり、もう一方の階級は、前進する光に従い続ける忠実な者たちであった。ローマの娘たちは母の預言的性質を反映しており、彼女らが娘となったその母は「淫婦たちの母」と呼ばれる。預言において淫婦とは、教皇制の像のように、国家と関係を結ぶ教会のことである。

黙示録14章の三人の天使のうち第一の天使は、三人の天使それぞれの三つの試験すべてを備えており、これはダニエル書1章も同様である。ダニエル書12章でも三段階の試験過

程が示されているので、その三段階の試験過程はダニエル書の冒頭と結末の双方に見られる。

多くの者は清められ、白くされ、試される。しかし、悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには悟る者はいない。だが、知恵ある者は悟る。ダニエル書 12:10

十二節の第一の試練は、子羊が屠られる聖域の外庭で起こる清めであり、罪人に義認が帰せられるものである。十二節の第二の試練は白くされることで、これは聖域の聖所によって表され、聖化が信者に授けられる時を示している。第三の段階は試されることであり、それは神の民が封印され、栄化が成し遂げられる至聖所のさばきを表している。礼拝者の二つの種類は、悟らない悪者と、悟る賢い者によって表される。

第二の試練は、聖なる言葉の中で幾度も示されているが、視覚的な試練を表しており、そこで二つの種類の礼拝者が明らかにされ、教会と国家の結合が象徴される。同様に重要なのは、第二の試練の特徴として、それが第三の試練に先立つことであり、第三の試練は裁きを表すという点である。ただし、第三の試練の裁きには重要な留保がある。三つの試練それぞれに裁きが伴うものの、最初の二つの試練は、人格形成がなお可能な歴史的文脈に置かれているからである。第三の試練はこれとは異なり、予言的な試金石であって、試しの過程の前の二段階においてあなたがどちらの種類の礼拝者になっていたのかを単に識別するだけである。

2001年9月11日に始まり、米国の日曜法で終わる14万4千人の封印の期間には、三つの試練がある。最初の試練は2001年9月11日に天使が降臨したときであり、1840年8月11日にミラー派の歴史において天使が降臨したことと一致して、その試練は食物に関する試練である。ダニエル書1章では、最初の試練はダニエルが王の食物を食べないことを心に定めた時であった。キリストのバプテスマのときに聖霊が降臨し、その後彼が四十日間断食したとき、彼の最初の試練は食物に関するものであった。

十四万四千人の封印の時期における第三にして最後の試験は日曜法である。その時、第七日安息日の要求を理解しながら太陽の日に礼拝することを選ぶ者は皆、獣の刻印を受け、永遠に失われる。三年後、ダニエル書一章では、ダニエルと三人の勇士が、過去三年間の訓練について裁きを受けるために、ネブカドネツアル（日曜法の象徴）の前に連れて行かれた。ニムロデの反逆の物語で、三度目の「さあ…しよう」のときに父と子が降りて来られたのは、彼らの言語を混乱させ、彼らを全地に散らすためであった。第三の試験は、二つの陣営を永遠に分けるリトマス試験紙である。

毒麦のたとえと網のたとえは、すべての悪人が神に立ち返る時が来ることはないとはっきり教えている。麦と毒麦は収穫まで共に育つ。良い魚も悪い魚も、最後の選り分けのために一緒に岸へ引き上げられる。

また、これらのたとえは、審判の後には猶予期間がないことを教えている。福音の働きが完結すると、直ちに善と悪が分けられ、両者の運命は永遠に定められる。『キリストの実物教訓』、123。

十四万四千人の封印の期間は、間もなく到来する日曜法令の時に終わり、その第三の試練と、2001年9月11日に到来した第一の試練との間に、第二の試練がラオデキア的アドベ

ンチズムにもたらされる。「裁きの後には恩恵期間はない」。その時点で十四万四千人に対する福音の働きは完了するからである。

ホワイト姉妹は、第一の試験に合格しなければ第二の試験に合格できず、第二の試験に成功裏に合格しないなら、第三のリトマス試験で私たちの失敗が明らかになると、いくつかの箇所を教えている。

私は、あらためてキリストの初臨の告知に目を向けるよう示された。ヨハネは、イエスの道を備えるために、エリヤの霊と力をもって遣わされた。ヨハネの証しを退けた者たちは、イエスの教えから益を受けることがなかった。その到来を予告するメッセージに反対したことによって、彼らは、彼がメシアであることを示す最も確かな証拠を容易に受け入れられない立場に自らを置いた。サタンは、ヨハネのメッセージを拒んだ者たちをさらに先へと駆り立て、キリストをも拒み、十字架につけるに至らせた。こうして彼らは、彼らに天の聖所へ入る道を教えるはずであった五旬節の日の祝福を受けることのできないところに自らを置いてしまった。神殿の幕が裂けたことは、ユダヤ人の犠牲と儀式がもはや受け入れられないことを示していた。大いなる犠牲はささげられ、受け入れられた。そして五旬節の日に降った聖霊は、弟子たちの心を地上の聖所から天の聖所へと向けた。そこへは、イエスがご自身の血によって入り、弟子たちにご自身の贖いの効力を注ぐためであった。しかし、ユダヤ人たちは全くの暗闇の中に取り残された。彼らは、救いの計画について持ち得たはずのすべての光を失い、それでもなお、そのむなしい犠牲と供え物に信頼し続けた。天の聖所が地上の聖所に取って代わっていたが、彼らはその変化を何も知らなかった。ゆえに彼らは、聖所におけるキリストの執り成しから益を受けることができなかった。

多くの人々は、ユダヤ人がキリストを退けて十字架につけた歩みを恐怖をもって見つめる。また、主が受けた恥ずべき虐待の歴史を読むとき、自分たちは主を愛しており、ペテロのように主を否認したり、ユダヤ人のように主を十字架につけたりはしなかっただろうと考える。しかし、すべての者の心を読み取られる神は、彼らが抱いていると公言したイエスへの愛を試練におかれた。天のすべては、第一の天使のメッセージがどのように受け入れられるかを、最も深い関心をもって見守った。ところが、イエスを愛すると公言し、十字架の物語を読みながら涙を流した多くの者が、主の来臨の良い知らせを嘲った。彼らはそのメッセージを喜んで受け入れるどころか、それを妄想だと宣言した。彼らは主の現れを愛する者たちを憎み、教会から締め出した。第一のメッセージを退けた者は第二のメッセージによって益を受けることができず、また、信仰によってイエスとともに天の聖所の至聖所に入る備えをさせるはずであった真夜中の叫びによっても益を受けなかった。そして先の二つのメッセージを拒んだことにより、彼らの理解は暗くなり、至聖所への道を示す第三の天使のメッセージの中に光を見いだすことができなくなっている。私は、ユダヤ人がイエスを十字架につけたように、名ばかりの諸教会がこれらのメッセージを十字架につけてしまったことを見た。そのため、彼らは至聖所への道を何も知らず、そこでのイエスのとりなしによって益を受けることができない。無益な犠牲をささげたユダヤ人のように、彼らはイエスが去られた区画に無益な祈りをささげる。そしてその欺きに満足したサタンは、宗教的な装いをまとい、彼の力とするしと偽りの不思議をもって働き、これら自称クリスチャンたちの心を自分のほうへと導き、彼らを自分の罠にしっかりとからせる。

もし私たちが2001年9月11日に象徴される警告のメッセージを受け入れないなら、まだ生きていたものとすれば、日曜法が到来したときには必ずそれを受け入れることになるでしょう。とはいえ、私たちの永遠の運命を決する試練、すなわち猶予期間が閉じる前、日曜法のときに封印される前に通過しなければならないその試練は、第二の試練であり、それは獣の像の試練です。

主は、猶予期間が終わる前に獣の像が形成されることを、私にはっきりと示してくださった。というのも、それが神の民に対する大いなる試練となり、それによって彼らの永遠の運命が決定されるからである。あなたの立場は矛盾だらけの寄せ集めであり、欺かれる者はごくわずかだろう。

黙示録13章において、この主題は明確に示されている。[黙示録13章11-17節、引用]

これは、神の民が印を受ける前に必ず通らなければならない試練である。神の律法を守り、偽りの安息日を受け入れることを拒むことによって神への忠誠を証明したすべての者は、主なる神エホバの旗印のもとに列し、生ける神の印を受けるであろう。天来の真理を放棄して日曜日の安息日を受け入れる者は、獣の刻印を受けるであろう。Manuscript Releases 第15巻、15。

十四万四千人の封印の時ににおける第二の試練は、預言的な視覚的試練である。それは、アメリカ合衆国における獣の像の形成を認識することを要求するが、その試練は神の預言のことばによってのみ明らかにされる。さらに、神の預言のことばは、「行に行を」という方法論として表されている後の雨のメッセージを食べることを選ぶ者にしか理解されない。もし、黙示録十八章の強い御使いが降りて来るとき、その手にあるメッセージを食べることを拒むなら、私たちは獣の像の形成を認識する能力を持つことができない。

天使の手にあるメッセージを食べるためには、預言を学ぶ者が、その天使の手にメッセージがあることを見て取れることが求められる。黙示録18章の力ある天使が下って来るとき、その節は彼の手に何かがあるとは述べていないが、「行に行を重ねる」という方法論は、複数の証言に基づいて、下って来る天使たちの手には常にメッセージがあることを立証する。「行に行を重ねる」という方法論を退ける者たちは、獣の像がアメリカ合衆国で形作られつつあることの証拠を与えるそのメッセージに盲目である。それは認識されなければならない。なぜなら、私たちの永遠の運命はこの真理を認識することに基づいているからである。「行に行を重ねる」ことによって、ホワイト夫人は、第一の天使の預言的特質を、黙示録18章の力ある天使のそれと同じ特質として示している。

私は、地上で進められている働きに天のすべてがいかに深い関心を払っているかを示された。イエスは力ある御使いに、地に下って地の住民にご自身の再臨に備えるよう警告する務めを与えられた。その御使いが天でイエスの御前を離れると、ひととき明るく栄光に満ちた光が彼に先立って進んだ。彼の使命は、その栄光によって地を照らし、来たる神の怒りを人に警告することだと私は告げられた。多くの人々がその光を受け入れた。その中には非常に厳粛に見える者もいれば、喜びに満ちて恍惚としている者もいた。光を受け入れた者は皆、天に顔を向け、神に栄光を帰した。それはすべての者に注がれたが、その影響下には入っても、心からは受け入れなかった者もいた。多くの者が激しい怒りに満たされた。聖職者も民も卑しむべき者たちと結託し、力ある御使いによって注がれた光に頑強に抵抗した。しかし、それを受け入れた者は皆、

世から離れ、互いに固く結び合った。

「サタンとその天使たちは、できるだけ多くの人々の心を光からそらそうと、せわしく働いていた。それを拒んだ者たちの一団は、暗闇の中に取り残された。私は、天来のメッセージが彼らに提示される時、彼らがどのような品性を現すかを記録するために、神を信じていると称する民をこの上ない深い関心をもって見守っている神の天使を見た。そして、イエスへの愛を公言する多くの人々が、その天からのメッセージを軽蔑と嘲りと憎しみをもって退けたとき、手に羊皮紙を持った一人の天使が、その恥ずべき記録を書き記した。全天は、イエスがこのように、彼を信じていると称する従う者たちに軽んじられることに、憤りで満たされた。」『初期の著作』245、246。

その箇所では、黙示録十四章の第一の天使は「地に降りて地の住民に、彼の再臨に備えるよう警告する」ために「委嘱された」のであり、これは黙示録十八章の天使の働きと全く同じである。第一の天使の使命は「彼の栄光によって地を照らし、来たるべき神の怒りを人々に警告すること」であり、これもまた十八章の天使の使命である。そのメッセージを受け入れた者は「神をあがめた」が、それを拒んだ者は「全くの暗闇の中に取り残された」。

ダニエルと三人の勇士は天の食事を選び、もう一方の一団はバビロンの食事を食べた。十日間の「視覚的な試験」の終わりに、ダニエルと仲間たちは神をあがめた。彼らの顔つきは、バビロンの食事を食べた者たちよりも、よりふくよかで、より美しかったからである。黙示録十四章の第一の天使のメッセージは、永遠の福音の提示の中に三つすべての試験を表している。第一の試験は神を畏れること、第二は神に栄光を帰すること、第三の試験は裁きの時が来るときである。十章でヨハネによって表されているように、第一の天使の手から小さな巻物を取りそれを食べた者たちは、第二の試験で神をあがめ、そしてネブカドネザルの裁きに入る備えができた。行に行を継ぐように言えば、2001年9月11日の第一の試験は、力ある天使の手にあった小さな巻物を食べることであった。その試験は、第三の最終的なリトマス試験に先立って、二つの種類の礼拝者が現れる次の試験を導入した。それは単に、栄光で輝く品性か、闇に満ちた品性かのいずれかを示すものにすぎなかった。

十四万四千人の封印の時は、2001年9月11日から、間もなく米国で制定される日曜法に至るまでの歴史である。その歴史において、十人の乙女のたとえが一字一句に至るまで繰り返され、成就する。その事実は、ハバクク書2章の預言的歴史もまた、一字一句に至るまで繰り返され、成就することを示している。また、それは、十四万四千人の封印の期間が、あらゆる預言的な幻の効力が一字一句に至るまで繰り返され、成就する時期であることを意味する。

ダニエル書第11章40節は、1989年の終わりの時に封印が解かれた。この節は1798年の終わりの時から始まり、1989年の終わりの時を示して終わる。行に行を重ねる原則により、1798年の終わりの時は1989年の終わりの時と一致する。1798年に始まり、41節の日曜法に至るまで続く40節の歴史は、聖書預言における第六の王国としての地の獣（アメリカ合衆国）の歴史を表している。地の獣の二本の角である共和主義とプロテスタント主義は、二つの終わりの時で表されている。

十四万四千人の封印の時に、プロテスタントの角は、その期間にある三つの試練のうち第二の試練の間に、二種の礼拝者を生み出すことになる。一方はキリストの像を形成し、もう一方は獣の像を形成する。その試練の間には、共和主義の角が背教したプロテスタントの角と結び、プロテスタント諸教会がやがて世俗政府を掌握するにつれて、獣の像を形作る。その期間は神の御言葉にあるすべての幻によって表されている。というのも、そこが「聖書の諸書が出会い、終わる」ところだからである。

その歴史における第二の試練は「獣の像」の試練であり、内的には乙女たちに、外的には二つの対立する政党の政治家たちに対するものである。その試練は、間もなく到来する日曜法において、「恩恵期間が閉じる前に」私たちが通過しなければならない試練である。その試練は、私たちが「封印される前に」通過する試練である。その試練は、「私たちの永遠の運命が決定される」試練である。

次回の記事でこの研究を続けます。

もう一人の力ある御使いが地上に下るよう遣わされた。イエスは彼の手に一つの書を授け、彼が地上に来ると、こう叫んだ、「バビロンは倒れた、倒れた。」そのとき私は、失望した人々が再び天に目を上げ、主の現れを信仰と希望をもって待ち望むのを見た。だが多くの者は、まるで眠っているかのように、うつろな状態にとどまっているように見えた。それでも、彼らの顔には深い悲しみの影が見て取れた。失望した人々は、聖書から、自分たちが遅れる時期にあり、幻の成就を忍耐して待たねばならないことを悟った。1843年に主を待ち望むに至らせたのと同じ証拠が、1844年にも主を期待するよう彼らを導いた。けれども私は、大多数が、1843年の彼らの信仰を特徴づけていたあの熱意をもはや持っていないのを見た。失望が彼らの信仰をくじいていた。…

イエスの聖所における務めが終わり、至聖所に進み、神の律法を納めた契約の箱の前に立たれたとき、彼はさらにもう一人の力ある天使を遣わし、第三のメッセージを世界に伝えさせた。天使の手には羊皮紙が渡され、その天使が力と威厳をもって地上に降りると、人間にもたらされた中で最も恐るべき威嚇を伴う、戦慄すべき警告を宣言した。このメッセージは、彼らの前にある誘惑と苦悩の時を示して、神の子らに警戒を促すためのものであった。天使は言った、「彼らは獣とその像と激しく対決させられる。永遠のいのちへの彼らの唯一の望みは、堅く立ち続けることにある。いのちが危険にさらされても、彼らは真理をしっかりと保たなければならない。」第三の天使は、そのメッセージを次の言葉で結ぶ。「ここに聖徒たちの忍耐がある。ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を保つ者たちがいる。」彼がこれらの言葉を繰り返すとき、天の聖所を指し示した。このメッセージを受け入れるすべての者の思いは至聖所に向けられる。そこではイエスが契約の箱の前に立ち、なおあわれみがとどまっている人々と、無知のために神の律法を破った人々のために、最後の執り成しをしておられる。この贖罪は、生ける義人のためばかりでなく、死せる義人のためにも行われる。それは、キリストを信頼して死に、しかし神の戒めについての光を受けていなかったために、その戒めにそむいて無知のうちに罪を犯した者たちをもみな含んでいる。『Early Writings』 245、255.